

みと議会だより

令和8年

9月定例会

No. 257

2026年11月1日号

「水戸市議会報」は、今号から「みと議会だより」として新しくスタートします。
題字「みと」は、毎号、市内の小中学生に書いてもらうことになりました。



8月3日に子ども議会を開催！高橋市長に堂々質問(3ページへ)



定例会あらまし



↑二次元コードを読み込むと、詳細をご覧ください。

会期

9月7日から30日までの24日間

議員質問

- ・代表質問5名(4～6ページ参照)
- ・一般質問19名(6～11ページ参照)

委員会付託議案

- (1) 各常任委員会、決算特別委員会及び公営企業会計決算特別委員会における議案等の審査
- (2) 各委員長による委員会審査の経過及び結果の報告
- (3) 討論 反対1名
- (4) 採決 原案のとおり可決、承認、認定

人事案件

- ・市長提出の人事案件4件を同意
- 教育委員会委員 1件
- 公平委員会委員 1件
- 監査委員 1件
- 人権擁護委員候補者 1件

意見書

- ・議員提出の意見書4件を可決(下段参照)

請願・陳情

- (1) 建設企業委員長及び文教福祉委員長による請願・陳情審査結果の報告
- (2) 令和8年請願第1号を採択、令和8年請願第2号をみなし採択、令和7年陳情第5号及び令和8年陳情第3号を不採択(下段参照)
- (3) 請願・陳情の閉会中継続審査を決定

議員派遣

- ・姉妹都市である敦賀市、親善都市である彦根市等への議員派遣を決定

閉会中所管事務調査

- ・各常任委員会等の閉会中所管事務調査を決定



本会議の様子

可決した議案



【議案第98号 令和8年度一般会計補正予算(第3号)】

防災管理経費の増額補正などを行います

感震ブレーカーの設置促進に向けた補助制度の創設等を行うものです。

Q 感震ブレーカーって？

A 一定以上の揺れを感知すると自動で電気を遮断する装置です。地震時の電気火災の発生抑制効果が期待されます。



国のパンフレット



可決した意見書



次の意見書を国会・関係行政庁に提出しました。

- 1 「防災庁」発足を見据えた地方自治体との連携強化及び防災体制の抜本的強化を求める意見書
- 2 夏休み中の子どもの貧困対策及び緊急セーフティネットの強化を求める意見書
- 3 地方財政の充実・強化に関する意見書
- 4 教職員定数改善及び義務教育費国庫負担制度堅持に係る意見書

請願・陳情の結果



- 【採 択】 ○令和8年請願第1号 笠原地区の地域特性を活かした安全・安心で持続可能な街づくりの推進に関する請願
市長に送付し、その処理の経過及び結果の報告を請求すべきものと審査決定した。
- 【みなし採択】 ○令和8年請願第2号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度堅持のための政府予算に係る意見書採択を求める請願
教職員定数改善及び義務教育費国庫負担制度堅持に係る意見書が採択されたことに伴い、採択とみなす取り扱いとした。
- 【不 採 択】 ○令和7年陳情第5号 就学前の教育・保育施設、小中学校、高校、特別支援学校、福祉施設における救急搬送の選定療養費徴収の中止を求める意見書の茨城県への提出についての陳情
- 令和8年陳情第3号 化学物質過敏症(CS)の人に対する人的支援と、学習会の実施に関する陳情
いずれも願意に沿いがたく不採択とした。

建設企業委員会



都市計画道路 3・3・2 号中大野中河内線(松が丘工区)斜路階段製作・架設工事請負契約の締結

主な質疑 契約相手方の決定に係る経緯、反対車線側に整備済みの斜路階段との仕様の差異、自転車通行帯の整備の有無、工事期間中の安全対策など

主な意見 (1)近接する市道の通行者への安全対策を図られたい。(2)一部完成区間の暫定的な供用も含めた早期の供用開始に努められたい。

全会一致 賛成

産業消防委員会



令和 8 年度一般会計補正予算
(産業消防委員会所管分)

主な質疑 まちなか店舗等開設促進補助金の実績や事業者からの問合せ状況など

主な意見 当該補助金については、まちなかへの新規出店にチャレンジする事業者のニーズに丁寧に寄り添い、更なる利用促進を図られたい。

全会一致 賛成

文教福祉委員会



令和 8 年度一般会計補正予算【専決処分】
(文教福祉委員会所管分)

主な質疑 物価高騰対応未就学児子育て応援給付金の支給対象及び金額の設定、スケジュールなど

主な意見 申請が必要となる対象者については、周知啓発を徹底し、漏れのない支給に努められたい。

全会一致 賛成

総務環境委員会



令和 8 年度一般会計補正予算
(総務環境委員会所管分)

主な質疑 感震ブレーカーの設置促進に向けた補助制度の概要や補正予算計上の時期など

主な意見 市民が制度の内容を確実に理解できるよう、丁寧な周知に努められたい。

全会一致 賛成

水戸ホーリーホックと茨城ロボッツを応援

今定例会では、両チームの更なる活躍を祈念し、ロゴ入りのオリジナルポロシャツを着用するとともに、議場の議長席と演壇に公式マスコットキャラクターのグッズを設置して本会議に臨みました。それぞれの競技の国内最高峰リーグで戦う両チームを、これからも応援していきます。



子ども議会ではこんなことを行いました



水戸法人会青年部会主催の「税金学習バスツアー」において、子ども議会を議場で開催し、市内の小学 5・6 年生 18 人が参加しました。

子ども議員任命

参加者に任命書の授与とバッジの交付を行いました。

施設見学

公設地方卸売市場、北消防署、市役所の 3 施設を見学しました。

ディスカッション

市議会議員のアドバイスを受けながら施設見学で感じた疑問等をまとめ、自分たちで質問を考えました。

子ども議会

袴塚議長の進行の下、高橋市長に対し、災害発生時の対応など、子ども議員ならではの視点で質問を行いました。



任命書とバッジ



ディスカッション



魁、水戸



後藤通子

Q いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンの今後の展望は

A 当ビジョンは、今年度が最終年度となる。来年度以降の展開と、政令指定都市を目指すのか伺う。

A 新ビジョン策定に向け、素案を取りまとめ、有識者等で構成されるビジョン懇談会において意見を頂いている。今後、人口減少の深刻化が見込まれる中、自治体それぞれが有する資源を融通し合い、共同活用する視点からの施策なども新たに位置付けていく。

政令指定都市を目指す取組は、連携中枢都市圏の取組とは別次元のものだが、本市が持続的に発展していくために、政令指定都市を展望した広域合併を推進すべきという考えである。本市の求心力を高め、他市町村住民が憧れる都市になることが必要であり、各種施策を積極的に展開し、魅力あふれるまちづくりを推進していく。

Q 偕楽園周辺エリアの活性化と千波湖・皿池の浄化について

A みと好文テラスを訪問・体験し、利用者の意見を伺った。平日の利用者数を伸ばし、市民の憩いの場とするために、ペットへの対応や

ベンチ増設などが有効と考える。また、水質がきれいでも臭いもない千波湖・皿池であることも重要である。見解を伺う。

A 事業者側で、ベンチや日陰施設の増設、ペット用ボールの設置等について、調達の具体化を進めていると聞いている。市においても、隣接する黄門像広場にベンチを増設し、休憩施設の整備について検討を重ねている。

また、皿池を含む千波湖一帯の水質改善には、霞ヶ浦導水事業を活用した、那珂川から千波湖への通水が重要である。引き続き、国・県と連携し、通水時間帯、継続時間、水量など複数の通水パターンの効果を確認し、水質改善に最も効果的な導水方法の確立を目指す。



みと好文テラス一帯

その他の質問

- 次期市長選への市長の思いは
- 企業誘致の更なる強化について
- ・これまでの実績と今後の取組は
- 下水道使用料改定の検討状況は

公明党 水戸市議会



もり森正護

Q 「子どもの権利条例」制定に向けた理念とスケジュールは

A 子どもを取り巻く環境は複雑化・多様化しており、行政や地域社会等が一体となって支えることが重要である。市長が制定を目指す条例の理念や方向性、スケジュールについて伺う。

A 条例は令和9年度施行を目指す。子どもの主体性を尊重するため、条約や法の基本原則等を踏まえ、子どもに保障される権利を定めるとともに、相談体制の整備、子どもの意見表明や社会参加を促進する取組等を検討する。制定に当たり、子どもや保護者等を対象とした子どもの権利等に関する意識調査、専門機関や関係団体からの意見聴取等を実施し、得られた意見を踏まえて、条例案を作成する。市独自の条例を制定し、まち全体で子どもを育み、子どもたちが成長できる環境づくりを進め、「こどもまんなか社会」の実現を目指す。

学校の防火安全対策は

Q 国から各学校へ平時からの火災予防の徹底が示された。市内小中学校でも万が一の火災事故発生等に

備え、命を守る防火安全対策を進めるべきと考える。現在の点検状況や対策等について伺う。

A 各学校に防火管理者を選任し、消防計画等に基づき、避難訓練を実施している。消防設備の法定点検と日常的な安全点検を実施しており、結果に応じて適切な維持管理をしている。また、各学校で危機管理マニュアルを作成し、毎年度の点検と、必要に応じた見直しを行っている。国の通知を受け、改めて各学校に安全点検の実施と安全管理の徹底を指示した。様々な状況を想定した訓練や、点検が重要と考えており、今後も各学校等と連携し、子どもたちの生命と安全を最優先に、防火防災体制の充実と安全管理の徹底に努める。



学校に設置している救助袋

その他の質問

- スマートシユリンク等を行政運営指針の一つに
- 奨学金返還支援制度を導入し、若者支援の強化を
- 大規模災害時の人的受援体制整備と計画策定を
- 感震ブレイカー設置補助事業の概要は
- デジタル教科書導入に伴う対応は



政和維新



マーサー
川又

水戸光園公ミュージアムの 整備と観光戦略は

Q 2028年の水戸光園公生誕400年を一過性の記念事業で終わらせず、未来に残る取組をすべきである。水戸の歴史や光園公の功績を体系的に伝える「水戸光園公ミュージアム」の整備を含め、偕楽園や弘道館等の歴史資源と連携した恒久的な観光振興、インバウンド誘客につながる長期的な観光戦略について、見解を伺う。

A 施設整備は、費用等の課題があり困難である。市立博物館での特別展開催を考えている。国内外への情報発信については、様々な施設や歴史的資源を、光園公を一つの軸として発信することで、魅力を高めることができると考える。今後、光園公生誕400年記念事業を決定し、進める中で、インバウンドも視野に入れた情報発信に取り組みとともに、光園公の人物像を入り口として、背景にある歴史や文化への興味を広げられる環境づくりを進める。

次世代交通システム

「Zippar」※の導入可能性は

Q 人口減少や高齢化等が進む中、将

来を見据えた新たな交通手段の研究が必要である。Zipparは、道路上空等を活用できるほか、低

コストでの整備が期待され、自動運転やカーブ、分岐にも対応できる柔軟な路線設計等の優位性を持つ。市内主要拠点を結ぶ新たな交通手段として、導入可能性の調査研究や事業者との意見交換、実証実験の誘致について見解を伺う。

A 路線バスを維持し、利便性や持続可能性の高い地域交通ネットワークの構築に努め、全ての人が安心して移動できる交通体系の実現を目指す。Zipparの導入は、観光面でメリットを感じる一方、行政経費増等の課題がある。今後の公共交通環境の変化等を捉え、必要に応じて調査研究を行う。



次世代交通システム「Zippar」

その他の質問

- 本市の経済的発展と企業誘致について
- ・企業から選ばれるための環境整備は
- ・国家事業等の誘致についての将来構想は
- 第3子以降への大胆な支援策を
- 水戸黄門ふるさと寄附金の現状と更なる取組は

水戸みらい



あじさわ
藤澤
康彦

国の「地域区分」改定に係る 本市の認識と対応方針は

Q 介護サービスや障害福祉サービスの報酬は、所在地の地域区分に基づき算定されており、今回の改定で本市の報酬単価は2%のマイナスになると想定される。昨今の物価高騰に加え、深刻な人材不足が続く介護・障害福祉サービス事業所にとって死活問題であり、本市の認識と今後の対応方針を伺う。

A 各事業所の収入に大きな影響を及ぼすものであり、由々しき事態と捉えている。影響を受ける事業者に対し、国が支援策を講じるべきと考える。引き続き、介護保険及び障害福祉の持続可能な制度運営と、それを担うサービス事業所の安定的な経営の確保に向け、事業者への影響を最小限にとどめられるよう、あらゆる機会を捉えながら、国の支援を強く求めていく。

線状降水帯等による 各地の災害を踏まえた対策は

Q 近年の豪雨災害では、短時間のうちに状況が急激に悪化し、各地で甚大な被害が生じている。市民の命を守るため、降雨予測情報の収集・発信や雨水の「流す対策」に加

え、「貯める対策」を早急に進めるべきと考える。見解を伺う。

A 河川の水位予測等のほか、本市に特化した気象情報を入手し、予測段階から市HPや公式SNS等で、早期に分かりやすく提供している。避難行動要支援者には個別に連絡を取るなど、個々の状況に応じた情報発信の取組も進めている。「貯める対策」は、計画に富士池拡張事業を位置付けたほか、笠原地区で大規模貯留施設を組み合わせた設計に着手した。今年度は、浸水シミュレーションの結果等を踏まえ、浸水要因の分析や地域ごとの課題を整理し、雨水管理方針の策定に着手する。その後、財政見直し等を踏まえた段階的対策計画をまとめ、雨水管理総合計画を策定する。



「貯める」対策の工事が進む富士池

その他の質問

- 市長の4期16年にわたる実績への評価と次期出馬は
- 国の消費税減税に伴う影響について
- ・本市財政への影響と対応策は
- ・国に確実かつ十分な財源措置を求める考えは



日本共産党 水戸市議団



つくだ
土田
記代美

東海第二原発再稼働を認めず 廃炉を求める決断を

Q (1)国が常陸大宮市に「核のごみ」最終処分地の選定に係る文献調査の申入れをしたとの報道があり、本市でも不安や怒りの声が上がっている。常陸大宮市は、棚倉断層の影響で最大震度7の地震発生の危険性が指摘されており、安全に地層処分できる環境ではない。同市に対し、直ちに受け入れ拒否を求め、県都として市民と郷土を守る姿勢を示すべきでは。(2)本市が取り組む広域避難計画の策定は、15年経過しても完成のめどが立たない。東海第二原発で事故が発生すれば、全ての市民を安全に避難させることは現実的に不可能である。市長は、原発に対し、原発再稼働を認めず、廃炉を求めるべきだ。

A (1)常陸大宮市の動向を注視しつつ、最終処分地の安全性等について調査研究を進める。(2)再稼働の是非に関わらず、広域避難計画は必要であり、策定に向けた取組を進める。

都市計画道路における 不明瞭な用地買収の真相は

Q 都市計画道路3・3・2号中大野中河内線の見川東工区で不明瞭な

用地買収があったと報道された。契約時、既に更地となっていた土地に、杉190本があったとして、市は約2355万円を土地代に上乗せし、約7300万円を支払った。(1)当該土地は長年にわたり耕作放棄地で、繁茂していたのは竹や雑木等である。市場価値のある杉だったはずはなく、虚偽ではないか。(2)地権者が買取希望を出した翌日、市は7300万円もの金額を決定した。事業認可が見通せない不要不急の土地を、なぜ5年前に、これほど急いで買ったのか。

A (1)伐採後、職員が現地を確認した切株の測定から樹高を推定し、当時の航空写真を用いて算定した。(2)市の将来的な財政負担の増加を避けるために先行取得した。



買収した道路用地

その他の質問

- 下水道料金値上げ検討の中止を
- 民間マンション建設への税金支出の中止を
- 防災対策について
- ・水害対策として防災倉庫のかさ上げ等の検討を
- ・被災動物の一時収容など避難体制の強化を

多様な障がい配慮するため 各種障がい者手帳のカード化を

なかむ
中庭
由美子

Q 障がい者の多くは、通所・就労に路線バスを利用し、割引には手帳の提示が必要となる。朝の混雑時、提示に手間取った際に周囲の乗客からの圧を感じ、以降、提示に時間を要しないか不安を抱いたとの話を保護者から聞いた。現行の紙製手帳は傷みやずく、サイズも大きく携帯に不便だ。平成31年の法改正で紙かカード型かを選択可能になった。市でもカード型を選べるようにすべきで、県内全自治体が実施できるように県に働きかけをすべきだ。

A カード化は携帯や提示の点で利便性向上が図れるが、視認性低下や発行に伴う財源確保などが課題だ。障がい者手帳スマートフォン用アプリ「ミライID」の活用を促進し、各種障がい者手帳のカード化は、県の動向を注視し、検討する。



カード型になった場合と従来の手帳型の比較

その他の質問

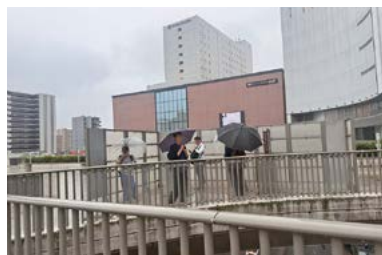
- 産後ケアの充実を
- 障がい者への交通系にカード乗車券運賃助成制度を
- 市職員の労働環境改善を

駅前広場における 受動喫煙対策の強化を

もり
森
智世子

Q 駅前広場における安全で快適な環境の確保に関する条例では、指定場所以外での喫煙を禁止している。しかし、喫煙所からの煙の流出や、周辺での「はみ出し喫煙」が見受けられる。水戸駅をはじめとする駅前は、多くの人が行き交う「まちの顔」である。吸う人・吸わない人の双方が快適に利用できるよう、喫煙所の移設や密閉化など、受動喫煙防止対策をさらに進めるべきではないか。

A 水戸駅については、パーテーションの設置や喫煙所の移設を行うなど、受動喫煙防止に努めている。また、指定場所以外での喫煙については、現地で注意喚起を行っている。今後も喫煙マナー向上の啓発等を強化するとともに、利用状況等を踏まえ、対応を検討する。



水戸駅南口の喫煙所

その他の質問

- 連携中枢都市圏における広域行政の推進について
- ・広域連携の成果と課題を踏まえた新たなビジョンは
- 「子どもの権利条例」制定と子どもの意見表明、参画は



その他の質問

- 親元就農支援の現状分析と今後の取組は
- 8050問題のリスクに対する見解は
- 昼間人口を踏まえたまちづくりを



寄附金の返礼品の例(干し芋)

その他の質問

- 「みとちゃり」の利用実態分析と更なる展開は
- 公共ライドシェアの実証事業を行う考えは
- 童謡文化を次世代へ継承するための取組は



はみんぐぱーく・みとに新設された屋内遊具

その他の質問

- 倒木等による被害防止について
 - ・街路樹及び公園樹木の維持管理は
 - ・学校樹木の安全管理は



飯富中学校の自然体験教室

その他の質問

- 移住相談窓口の充実と伴走型フォローアップ体制強化を
- 移住者の定着に向けた起業・創業・就職支援の強化を
- 第二最終処分場跡地における公園整備事業の早期完成を

重層的支援体制整備事業の推進と
セーフティネットの強化を

谷 宏
細 智

Q 高齢・障害・困窮等の複合的な課題に対し、包括的な支援体制が必要と考



える。孤立する市民の命と暮らしを守る重層的支援体制整備事業の推進と、セーフティネット構築に向けた取組を伺う。

A 今年度から重層的支援体制整備事業を開始した。これまでの専門的な支援の枠組みを生かしつつ、分野横断的な調整機能を加え、関係課・関係機関同士の連携強化や相談支援の円滑化を図る。また、行政で把握しきれない支援ニーズに対応するため、多様な主体と相互連携を強化し、地域全体で包括的に支援する体制づくりに取り組む。今後も本事業の推進を通じて、市民の命と暮らしを守るセーフティネットを強化し、誰一人取り残さない地域共生社会の実現に努める。

ふるさと納税制度を通じた
「水戸のファン」づくりを

渡 辺
欽 也

Q 当該制度は生まれ故郷等を応援する目的で始まり、地域の特産品のPRにも寄与してきたが、近年は返礼品競争の側面が強くなっている。競争を否定するものではないが、市民の他自治体への寄附額が増えたことで、本市の減収につながったことも事実である。(1)現状認識について、(2)「水戸のファン」づくりに向けた、寄附者への各種情報発信や関係構築の取組について伺う。



A (1)本来の理念からズレが生じていると考える。本市財政への影響について、HPで周知を図っている。(2)地場産品の紹介や観光案内を行っている。令和7年度実績のうち、2年連続の寄附者は13%を占めており、「水戸のファン」と言える存在である。関係人口増加に向け、関係性を深められる取組を行う。

「わんぱく・みと」とはみんぐ
ぱーく・みとの更なる充実を

田 尻
由 紀

Q 既存施設を有効活用しながら、民間事業者の持つ企画力や運営ノウハウを生かし、子どもの遊び・学び・体験の機会や、多世代交流の充実を図ることで施設の魅力を高め、中心市街地の回遊やにぎわい創出にもつなげていくべきだ。今後の指定管理者選定に当たり見解を伺う。



A 今年度で5年間の指定管理期間が終了するため、来年度からの指定に向けた公募等の手続きを行っている。次期の公募に当たっては、管理運営業務を大幅に見直し、民間事業者が有する優れた企画力や運営ノウハウを最大限に活用し、施設の利用促進や魅力向上につなげられる事業提案を新たに求めている。今後も市民の利便性向上と施設の効用向上を図り、何度も訪れたいと思われる施設を目指す。

船中泊に代わる新たな
体験学習の現状と評価は

黒 木
勇 一

Q 船中泊を伴う自然教室は、事業の見直し・再編に伴い、大きな節目を迎えた。五感をフル活用するリアルな直接体験こそが、子どもの豊かな人格や自己肯定感、主体性を育み、人生の可能性を広げる原動力となる。子どもたちが自然と触れ合い、仲間とともに成長できる、質の高い体験学習の機会を担保する必要がある。新たな体験学習の現状と教育的効果に対する評価を伺う。



A 行き先や活動内容を生徒自ら決定することで、自主性や判断力を育む、より意義の高い自然体験教室へ今年度から移行した。9月現在、既に7校で実施しており、豊かな自然と触れ合うとともに、友人や教員との絆を深められた。今後も自然体験活動を通して、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。



都市計画道路3・3・2号(見川東工区)の用地買収問題について

中田 己実

Q 市は令和3年に見川4丁目の都市計画道路用地約2300㎡を不動産会社から買収した。土地代約5000万円と、杉190本の移転補償費約2400万円を支払ったが、契約前に樹木が伐採されていた。市は航空写真等で杉190本を推定し、補償したが、市の資料で確認できるのは竹や広葉樹ばかりである。市が推定した直径36cmの杉は樹齢60年以上になるが、市が買収する15年前の航空写真では、ほとんど樹木がない。これは補償金上乗せを目的とする杉の捏造ではないか。不正の徹底説明と再発防止、税金支出の返還請求を求めるがどうか。



Q 介護認定審査会は、要支援や要介護等、その人が介護保険サービスをどの程度必要としているかを公的に判定するための附属機関である。国が示す運営要項では、医療・保健・福祉の3領域からバランスよく委員を選出することが原則とされているが、本市の審査会委員には、介護福祉士が1名しか入っていない。介護福祉士は、国家資格を持つ介護の専門職であり、要介護者等の生活実態を最も近い距離で把握している職種である。審査・判定の透明性と専門性を高めるため、介護福祉士の委員枠を増やすべきと考えており、見解を伺う。



介護認定審査会における介護福祉士の必要性について

滑川 友理

Q 長年にわたり市の高齢者福祉を担ってきた開江老人ホームが今年度で廃止される。(1)施設と土地の利活用に向けた検討状況は。(2)地域や民間のアイデアを生かした民間連携による利活用の検討は。(3)早期の利活用方針決定に向けた見解を伺う。



開江老人ホーム廃止後の施設の利活用は

高倉 富士男

Q 子どもたちが自由に野球やサッカーをできる公園は市内に1か所のみだ。防球ネット整備には約千五百万円を要し、財政負担が大きい。他自治体では校庭を公園と捉え、学校に管理責任を負わせず、シルバー人材センター等を活用し、開放している例もある。本市でも導入を。



学校の責任・負担ゼロで校庭を放課後の公園に！

池田 悠紀

A (1)旧棟部分の老朽化が著しいが、増築部分の居室、厨房設備、食堂兼集会室、浴室等は再利用が可能であり、今後、利活用方針を取りまとめる。(2)福祉関係等の民間事業者に提案を求める形で調査を進めている。地域住民や地域団体から意見を聞く機会の設定も今後検討する。(3)民間事業者からの提案内容等を精査するとともに、土地や建物の資産価値等の調査も進め、できるだけ早期に最終的な利活用方針を決定する。

Q (要望) 寝屋川市ではカラーコーン等で校庭をすみ分けし、問題なくアンケートを実施し、校庭開放を決めた。本市も、まず子どもたちに利用意向を調査してほしい。

A 放課後学級とのすみ分けや見守り人員の配置等が課題だ。昭和50年代からPTA等の見守りで校庭を開放していたが、利用児童が減り、平成26年度に廃止した経緯がある。開放再開には慎重な判断が必要だ。川崎市ではカラーコーン等で校庭をすみ分けし、問題なくアンケートを実施し、校庭開放を決めた。本市も、まず子どもたちに利用意向を調査してほしい。



伐採後に市が推定で杉を補償した現地

その他の質問

- 契約前の伐採を補償したのは国の損失補償基準違反では
- 航空写真等で杉が確認できないが約2400万円の根拠は
- 不動産評価審査会の審査と土地にある産業廃棄物について



その他の質問

- 市職員への災害応急作業等手当の導入を
- 多子世帯に対する放課後学級の減免制度を
- 下水道管路における全国特別重点調査の結果は



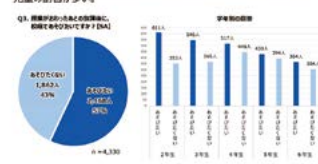
開江老人ホーム

その他の質問

- がん検診の受診率向上に向けた取組は
- がんサバイバーシップ支援に対する見解は
- 市独自のアピランスケア支援の検討を

児童へのアンケート結果

校庭開放の希望【平日】
学年別に見ると、低学年のほうは、校庭開放を希望しない児童より希望する児童の割合が多い。



「みんなの校庭プロジェクト」川崎市教育委員会事務局HPより

その他の質問

- 水戸の子どもが弘道館・倍楽園へ行かずに卒業してよいのか
- 事務事業評価を導入し、税金の使途や成果を公開すべき
- 日本語指導が必要な外国人児童の増加で、学校の負担増は



東野市民運動場

その他の質問

- 本市の未利用財産の状況について
- ・どのくらいの未利用財産があるのか
 - ・利用が少ない公共施設を用途廃止し、財政に貢献させては



整備要望のある開江地区

その他の質問

- 市内の防犯カメラについて
- ・設置台数と場所は
 - ・設置基準と優先順位、設置効果の検証は



ミトリオマルシェ

その他の質問

- 町内会加入の有無を超えた地域防災体制を
- 市民センター窓口での施設予約への支援を
- 放課後学級の質の向上と地域協働型運営を



相談員による支援

その他の質問

- 地域コミュニティ維持・活性化について
- ・次世代の地域人材育成は
 - ・民間活力を活用した新たな活動の仕組みづくりは

東野市民運動場に道の駅整備
または企業誘致を

まつもと
松本久勝

Q (仮称)西谷津広場が完成すると、約100mの距離に位置する東野市民運動場利用者の移行が見込まれる。茨城町東ICに近接している立地条件を生かし、東野市民運動場に(1)道の駅の整備、または、(2)企業立地の種地とすることを提案する。見解を伺う。



A (1)道の駅設置には、立地条件及び事業主体、採算性及び収益性など様々な視点から総合的な判断が必要だ。運動場の用途廃止を前提としても、多くの難しい課題がある。(2)高速道路へのアクセスに優れており、企業の立地先としてポテンシャルはあるが、市街化調整区域における工場等の開発要件を満たしていない。様々な課題が整理され、運動場の用途廃止ができる場合に、要件等の見直しを検討する。

開江地区の将来的な
下水道整備の方針は

あつた
津亮一

Q 開江地区は市街化調整区域内に大きな集落が形成されており、下水道整備を望む声が多い。同地区の下水道整備の位置付けについて、見解を伺う。



A 同地区は、双葉台団地北側、県道真端水戸線付近に、既存集落が形成されている。周辺状況等から公共下水道の事業計画区域として位置付けているが、工事に要する事業費の増加や、国の交付金が減少傾向にあり、既存施設の維持・更新にも対応する必要があることから、未整備区域への取組に時間を要している。引き続き、国に支援を求めるなど、必要な財源確保に努める。今後も要望を受け止め、社会情勢の変化や国の交付金の動向等を注視しながら、効率的・効果的な事業の推進を図る。

ミトリオに
戦略的なエリアマネジメントを

はぎや
萩合慎一

Q 市民会館は多くの集客が図られているが、周辺への回遊や滞在、消費、交流につなげることが重要である。高校生等の若者の利用実態や消費動向等を把握するとともに、若者が企画に参加できる仕組みを整えてはどうか。また、関係者をつなぎ、継続的に事業を仕掛ける専門人材を活用したエリアマネジメント体制を検討してはどうか。



A 今後、アンケートや聞き取り等で把握に努める。現在、マルシェやスタンプラリー等を実施しており、引き続き消費動向等の把握や商店街との連携を進める。若者が活動しやすい環境づくりの支援とともに、ミトリオにぎわい推進協議会で各種取組の充実策を検討する。

増加が見込まれる
身寄りのない高齢者への支援は

うちこし
打越美和子

Q 身寄りのない高齢者は、入院や施設入所時の手続き、死後事務等のほか、日常生活でも買い物や金銭管理等、多岐にわたる不安を抱えている。地域で安心して暮らし続けるための支援体制と、今後の取組を伺う。



A 圏域型地域包括支援センターを8か所に設置し、身近な相談窓口としての機能を持たせるとともに、民間企業等の提供する社会資源と高齢者のニーズをつなぐ役割を生活支援コーディネーターが担っている。今後もこの相談支援体制を基盤に、成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用促進、生活支援コーディネーターによる地域の社会資源とのマッチング、関係機関との連携強化を進め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制整備に取り組む。



持続的発展策としての広域合併と
市民所得の向上策は

須田 浩和
すだ ひろかず

Q 人口減少社会が到来する中、本市の持続的発展を

考える上で、合併による



自治体規模の拡大と行政基盤の強化は欠かせない。また、市民所得を向上させることで、市民の暮らしにゆとりが生まれ、消費の拡大や地域経済の活性化、税収の増加につながると考える。見解を伺う。

A 広域合併の実現には、本市の強みである高い都市の総合力を生かし、求心力を高める必要がある。新たな課題にも積極的に対応しつつ、水戸ならではの個性等を磨き上げ、魅力あふれるまちづくりを推進する。また、市民所得は近年増加傾向にあり、市内経済は成長し続けている。引き続き、中小企業の経営基盤の強化や企業誘致に取り組み、経済活動の活性化、安定した雇用の創出、働く場の確保を図る。



成長・発展を続ける水戸市

その他の質問

- 広報における正確な情報伝達について
- ・生成AIによる情報検索への対応は
- ・情報の公開・提供方法を見直す考えは

内原駅南口のシェルター工事は
適切な予算執行を徹底すべき

安藏 栄
あんざう さかえ

Q 現在、内原駅南口周辺事業が進行しており、今後、

南口広場の建築工事等が本格的に始まる。雨天時でも快適



に移動できるよう、歩行者用の屋根の設置等を行うものだが、北口での同様の工事と比べて費用が高額になる見込みであり、価格の妥当性について検証する必要がある。現在実施中の第1工区に加え、第2工区の施工も控えており、高額な工事が続く場合、市民理解は得られるのか。詳細な説明を求める。

A 設計金額は約8900万円となり、北口の工事と比べて約6100万円高い。理由は、材料の違い、物価高騰の影響、工事範囲の違いであり、経済性・妥当性を精査した上で価格を決定した。第2工区の変更は困難であり、早期の供用開始に向け、着実に工事を進める。



内原駅北口広場に設置されている屋根

その他の質問

- 内原駅南口周辺整備の全体スケジュールは
- 内原駅南口の交差点改善と横断歩道の設置を
- 県立中央病院移転に伴う内原駅周辺の環境整備は

教育現場での
情報リテラシー教育は

綿引 健
わたしき けん

Q インターネットの検索機能向上により、児童生徒に情報過多の状況が発生

することが懸念される。情報の正確性の確認や職員による判断が重要と考える。教育現場での情報リテラシーへの対応について伺う。



A ICT支援員が、情報モラル等に関する授業支援を行うとともに、小学1年生からの9年間を見通した情報活用能力体系を作成し、発達段階に応じた情報活用能力の育成を進めている。生成AIについては、自らの考えを基盤に、補助的に活用する力等を養うことを重視しており、ICT支援員が授業支援プランを作成し、AIリテラシーの育成にも取り組んでいる。今後も情報技術の特性やリスクを理解し、主体的かつ責任を持って活用できるよう、育成に努める。

A 企業の多様な立地ニーズに対応するため、更なる規制緩和に向け、制度の統合や基準面積の見直しを進める。企業誘致・創業支援室が関係各課と連携を密にし、手続きを円滑に進められるよう努める。今後も企業と地権者の調整が円滑に進むよう、必要な支援に取り組む。



ICTを活用した授業

その他の質問

- 教育行政におけるAIの活用現況は
- 納豆消費拡大に向けた施策は
- 豪雨災害時における車両の事前避難の考え方は

持続可能な発展に向けた
企業誘致戦略を

鬼澤 眞寿
おにざわ まこと

Q 企業誘致は本市の発展に欠かせない要素であり、「できない」を「できるよ

うにする」という視点で取り組む必要がある。産業系エリア指定制度の実効性を高めるため、企業誘致・創業支援室を中心に連携体制を構築するとともに、用地面積や道路要件など開発基準の緩和、手続きのワンストップ化、許認可短縮のファストトラック制度の導入等を進めるべきだ。改めて提案する。



A 企業の多様な立地ニーズに対応するため、更なる規制緩和に向け、制度の統合や基準面積の見直しを進める。企業誘致・創業支援室が関係各課と連携を密にし、手続きを円滑に進められるよう努める。今後も企業と地権者の調整が円滑に進むよう、必要な支援に取り組む。



産業系エリアに指定した区域(下野町)

その他の質問

- 産後ケア事業の拡充と利便性の向上について
- ・本市の受け入れ状況と訪問型ケアの拡充は
- ・事前登録制の導入と自己負担額の更なる軽減を



集中豪雨で冠水した市道

その他の質問

- 避難先の種類と安全性は
- EV車両等の非常用電源の活用は
- 支援物資の受け入れに関する現状は

A (1)従来の「流す対策」に加え、流域治水の取組とも連携した「貯める対策」に取り組んでいる。市内全域を俯瞰した雨水浸水対策を進め、優先度を見極めながらハード面の浸水対策を推進する。(2)過去に冠水した市内道路44か所には冠水時通行止め看板を、偕楽園下交差点付近には冠水時に水深を視認できるポストコーンを設置済みである。赤塚駅西線アンダーパスには、路面と側壁に水深表示板を設置したほか、センサー連動の水位計により、冠水時に入口の表示板に「通行止」等の注意喚起情報を表示し、利用者へ危険回避を促している。

Q (1)浸水リスク箇所のハード整備状況は。(2)平時から道路上に「危険の見える化」を行い、ドライバーへ啓発する対策が有効だ。それぞれ伺う。



水害・冠水から市民を守る
道路環境整備は

佐藤 昭雄



決算審査Q&A ～こんなところに注目しました～

今定例会では、決算特別委員会及び公営企業会計決算特別委員会を開催し、本市の前年度決算を審査しました。両委員会において、様々な視点から質疑を行い、慎重に審査した結果、いずれも認定すべきものと決定しました。今回は、質疑の内容の一部を紹介します。

TOPICS 1 水都(すいっと)タクシー

Q 公共交通を利用しにくい地区にお住まいの方の移動手段確保に向け、令和7年度は、どのような利用促進策を実施したのか？

A 事業の案内チラシを作成し、対象地区の各市民センターに配置するとともに、「広報みと」とあわせて対象の各世帯に配布した。

また、市HPにも案内を掲載している。



水都タクシー

TOPICS 2 学校給食の地場農産物活用

Q 本市の特産品等を活用した「MITOごはん」を、令和7年度は、どの程度提供したのか？

A 梅ゼリーやごぼうメンチカツ等のメニューを各校で年間約30回提供した。



MITOごはん

TOPICS 3 下水道管路の維持管理

Q 令和7年度に実施した下水道管路における全国特別重点調査の結果と本市の対応は？

A 直ちに陥没のおそれがある箇所は確認されなかった。対策が必要な箇所について、工事が完了するまで定期的に巡視を行い、適切な維持管理に努める。

議会改革推進プランを策定しました



本市議会では、1月から議会基本条例を施行しています。条例に定めた事項の着実な推進を図るため、議会改革調査特別委員会において計6回の協議を行い、「水戸市議会 議会改革推進プラン」を策定しました。

計画期間は令和8年度から10年度の3年間とし、4つの基本方針の下、議会改革の推進に取り組んでいきます。

【基本方針】

- 1 市民との情報共有及び市民参加の推進
- 2 監視機能の強化
- 3 政策立案機能の強化
- 4 危機管理機能の強化

「みと議会だより」の題字を書いていただきました

題字を書いた人

1人目

三の丸小学校6年 あがた 玲衣 れい さん

私の将来の夢は、長生きすることです。なぜなら、長生きすればたくさんの楽しい経験ができるからです。今回、題字を書くという貴重な経験をして、新しいことに挑戦する楽しさを改めて知りました。

このような経験をたくさんするために、健康に過ごして、いろいろなことに挑戦していきたいです。

編集委員が突撃取材！ 実際に体験して分かった！
こんな楽しみ方があります

取材メンバー 池田 悠紀・中庭 由美子・細谷 智宏
(編集委員) 森 智世子・鈴木 宣子

知られざる「みと好文テラス」の魅力

1 🐾 ペットと一緒に過ごせる「ドトール パークカフェ 千波公園店」🐾



ワンちゃんと一緒に
食事を楽しめます！

店内には水槽があり、魚たちの泳ぐ姿に癒やされる空間です。



利用者の方に
インタビューしました！



週に3日ぐらい来ています。ペットが入れるお店は少ないから、本当に助かる。犬好きのコミュニティづくりにもなります。

2 🎯 初めてでも盛り上がるピククルボール

初心者でもラリーが続き、
ほどよい運動で
気持ちよく楽しめます。
友人同士や家族で
ぜひ体験してみてください。



ルールはシンプル。
でも意外と熱い！



開放的なコートで
爽やかに体を動かそう！

思わず転んでしまうことも…
それも楽しい思い出に！

3 🌿 平日昼は狙い目「niko and ... BASE」のサウナ



アロマの香りと
心地よい音楽に包まれて、
心も体もリフレッシュ！

木のぬくもりと上質な空間で、
ゆったりと過ごせる
ごほうび時間を
味わえます。

水風呂も
ちょうどいい！

サウナで整ったあとは、
カフェや緑の散策もおすすめ！

ぜひ「みと好文テラス」へ！

※イメージ



次回の定例会は、12月7～22日の期間で開催を予定しています。ぜひ傍聴にお越しください。

